

令和元年度 第20回人事委員会 会議結果

- 一 日 時 令和2年1月10日（金） 午後3時から3時40分まで
- 二 場 所 人事委員会委員室（県庁第二庁舎7階）
- 三 出席者
- | | | | | | |
|---------|------|-------|---------|------|--|
| 1 人事委員 | 委員長 | 小松哲也 | | | |
| | 委員 | 上田博久 | | | |
| | 委員 | 中本久美子 | | | |
| 2 事務局職員 | 事務局長 | 川本晴彦 | 次長兼任用課長 | 山添久 | |
| | 給与課長 | 川口豊長 | 主 幹 | 尾田聡子 | |
| | 係 長 | 毎野卓実 | 係 長 | 高多孝典 | |
| 3 傍聴者 | | なし | | | |

四 議 題

報告第1号 令和元年度新規採用職員アンケート結果について

五 議 事

議事について公開又は非公開のどちらとするかについて審議を行い、議事は公開とすることについて全員の合意を得た。

◇報告第1号

令和元年度新規採用職員アンケート結果について、事務局が説明した。

【説 明】

令和元年度 新規採用職員アンケート調査結果

1. 目的
県職員採用試験に合格して採用された新任職員に対して、志望動機等を把握し今後の人材確保施策等へ反映させるとともに、採用後の業務内容とのミスマッチの防止を図るための参考資料とする。

2. 調査方法

- ・令和元年度の新規採用職員84人を対象にアンケート調査（無記名）を実施
- ・有効回答は80人（回収率95.2%）。

【内訳】

- 事務職：回答数 55人（うち女性24人）
- 技術職：回答数 25人（うち女性10人）

※職種：土木、農業、林業、獣医師、薬剤師（公衆衛生）、社会福祉、保健師、学校栄養職員等

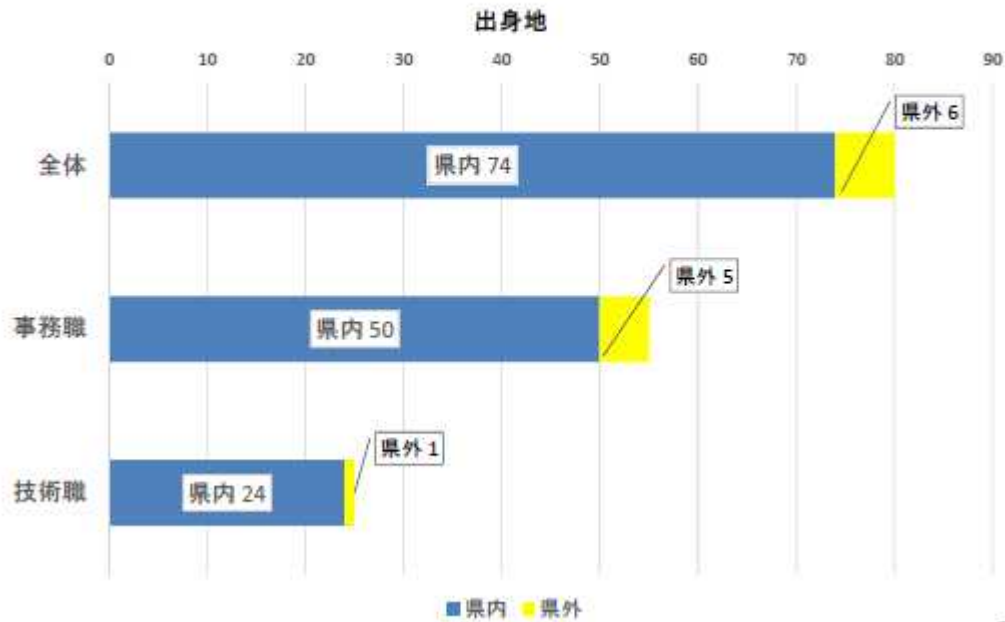
（備考）

- ・アンケート対象は平成30年度に人事委員会が実施した採用試験を受験し採用となった職員。
- ・H27、29に続き3回目の調査。

令和2年1月
鳥取県人事委員会事務局

1. 出身地

○県外が地元の者が数人いるが、9割以上が鳥取県出身である。



2

2. 最終学歴の所在地

○事務職では、県外の大学等を卒業した者の割合が比較的多い。



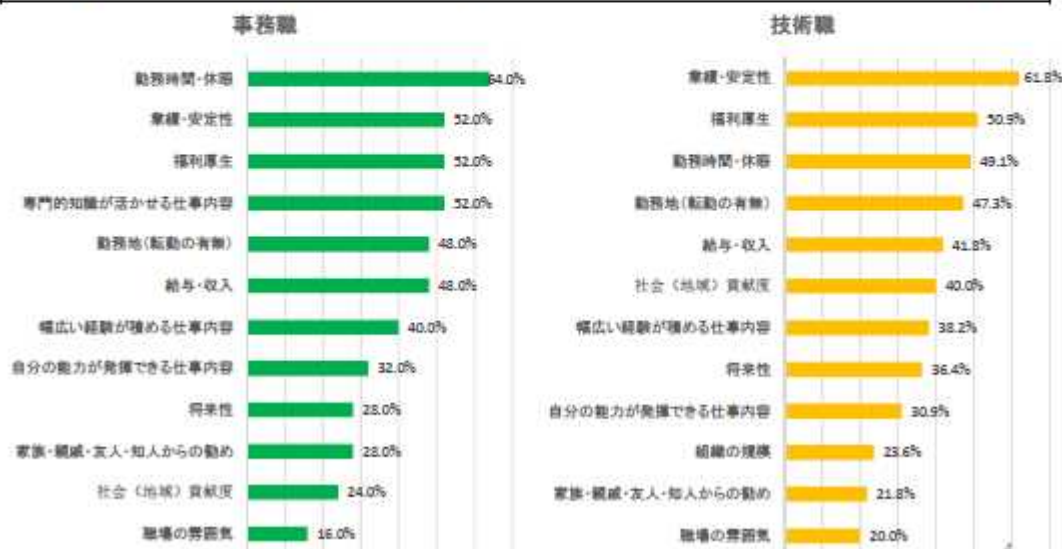
3

3. 就職先を検討するに当たり重視する(重視した)事項【複数回答可】

○休暇、福利厚生といったライフワークバランスに関する項目の割合が、前回調査と比べて大きく増え、事務職、技術職ともに上位となった。

<前回(H29)調査との比較>

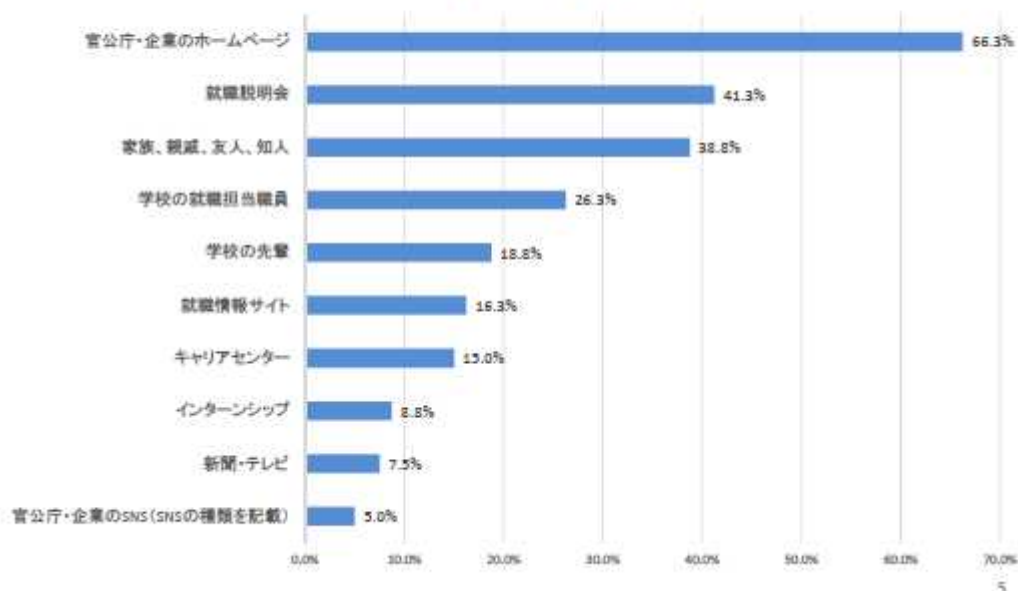
事務職 ✓勤務時間・休暇 前回:43.5% → 今回:64.0%(+20.5) ✓福利厚生 前回:46.4% → 52.0%(+5.6)
 技術職 ✓勤務時間・休暇 前回:35.9% → 今回:49.1%(+13.2) ✓福利厚生 前回:38.5% → 50.9%(+12.4)



4. 就職情報を収集する際の活用媒体【複数回答可】

○前回(H29)調査と同様の傾向で、ホームページや就職説明会から就職情報を多く情報を得ている者が多かった。

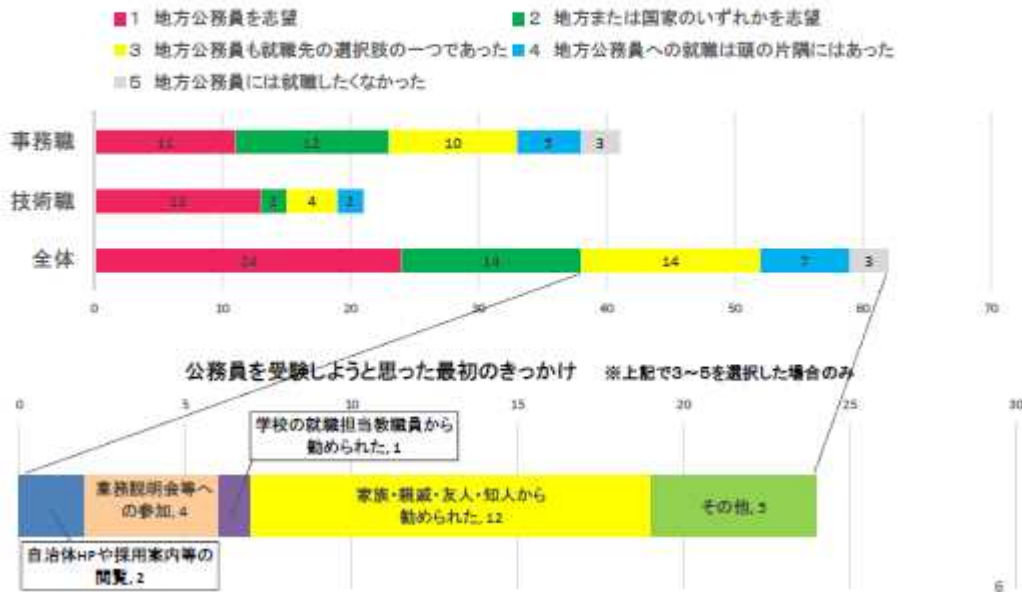
就職情報を収集する際の活用媒体



5. 就職活動開始時点での志望状況(大卒程度)

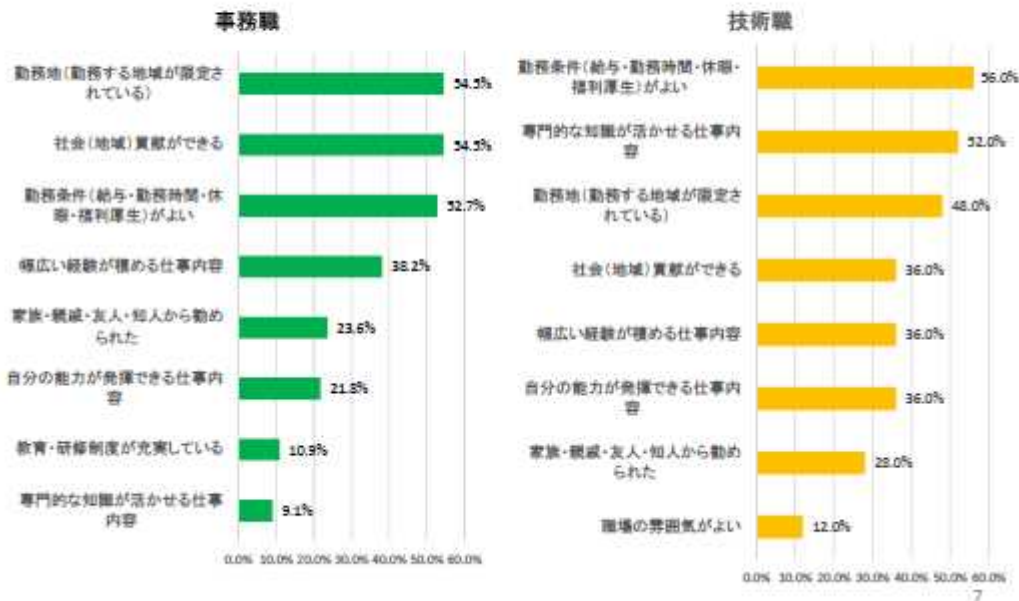
- 技術職は、最初から公務員を目指して活動を開始する割合が高かった。
- 就職活動開始時点で、地方公務員の志望を考えていない、またはそれほど考えていない場合の受験したきっかけで最も多かったものは「家族、友人等からの勧め」であった。

就職活動開始時点での志望状況



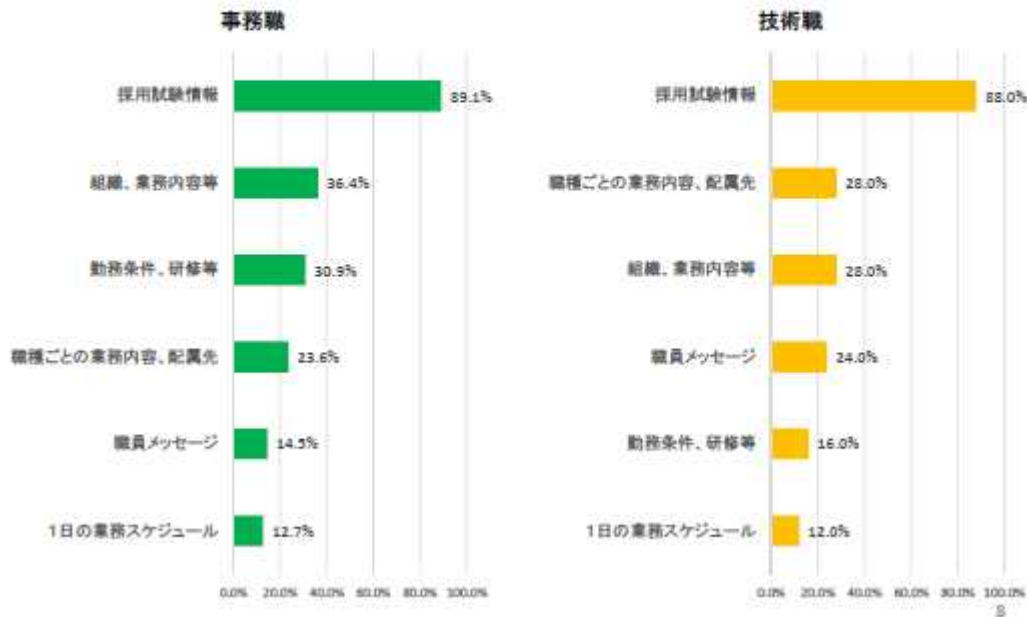
6. 地方公務員を目指した理由【複数回答可】

- 前回(H29)調査では事務職・技術職ともに「社会(地域)貢献ができる」が最も多かったが、今回は事務職では「勤務地」、技術職では「勤務条件」が最も多くなった。
- 技術職は、「専門的な知識を活かせる」を選択した割合が前回調査と同様2番目に多かった。



7. 受験前に最も見た、参考になった情報 【複数回答可】

○技術職については、「職種ごとの業務内容や配属先」、また「職員メッセージ」を選択した割合が、事務職に比べて多かった。



8. 事務(総合分野・キャリア総合)による受験

○事務職の試験区分のうち、総合分野(専門試験なし)及びキャリア総合(教養、専門試験なし)を受験した最大の理由については、「教養試験等の勉強にあてる時間がなかった」を選択した者が最も多く、次に「民間対策がそのまま活かせると思った」が続く。

○当該試験区分の有無による影響については、同区分がなかったら受験していないとする者も半数程度あった。

採用試験で総合分野・キャリア総合による受験を選択した最大の理由



上記試験区分の有無による影響

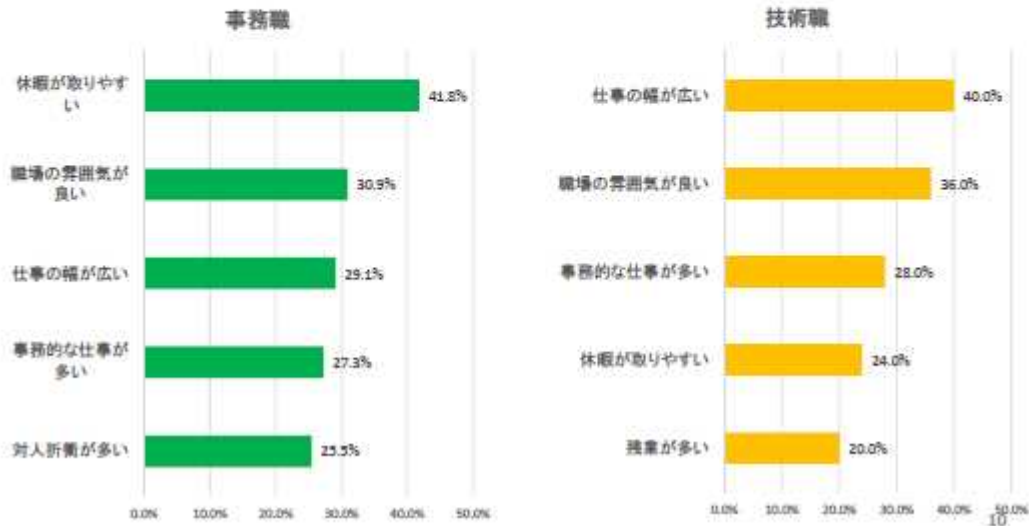


9. 採用後に感じたギャップ 【複数回答可】

○事務職においては「休暇が取りやすい」が最も多く、技術職においては「仕事の幅が広い」が最も多かった。また、事務職・技術職ともに、「職場の雰囲気が良い」が2番目に多くなり、前回調査と比べて、職場環境に関する項目の割合が高くなった。

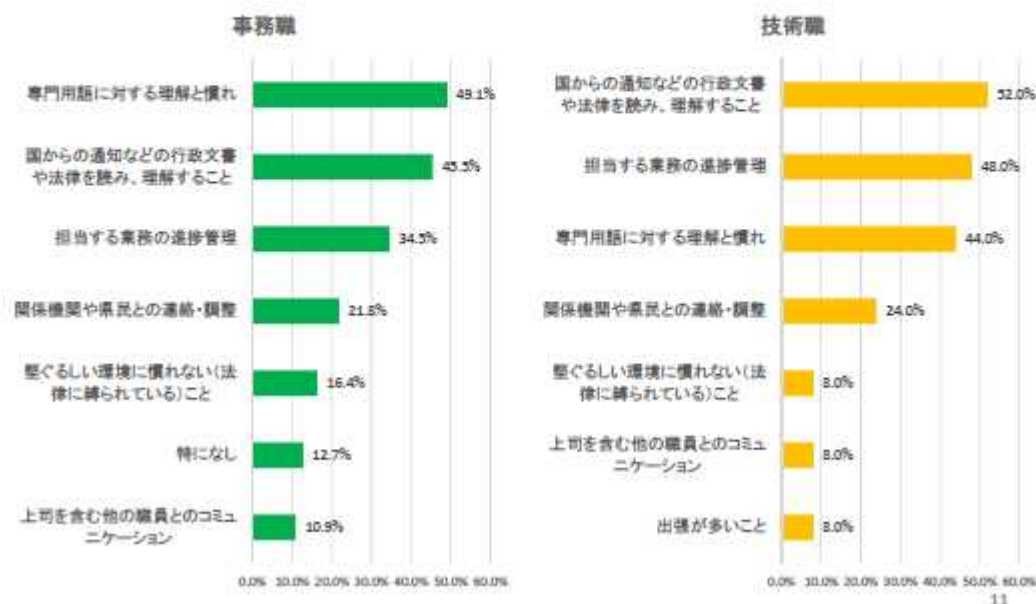
<前回(H29)調査との比較>

事務職 ✓休暇が取りやすい 前回:20.3% → 今回:41.8% (+21.5)
 技術職 ✓事務的な仕事が多い 前回:25.6% → 今回:28.0% (+2.4)



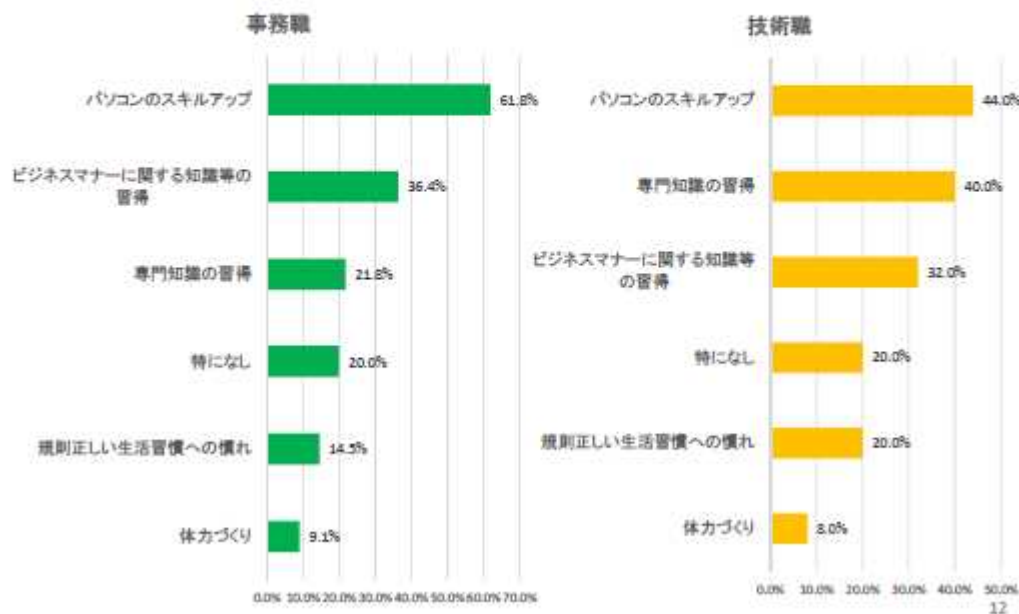
10. 勤務する上で難しく感じていること 【複数回答可】

○事務職・技術職ともに、「専門用語に対する理解と慣れ」「行政文書や法律への理解」「担当業務の進捗管理」を選択した割合が最も多く、4~5割程度の職員が難しいと感じていた。



11. 採用までにしてあげれば良かったこと【複数回答可】

○事務職・技術職のいずれも「パソコンのスキルアップ」を選択した割合が最も多かった。また、技術職においては、「専門知識の習得」を選択した割合が事務職に比べて多く、パソコンのスキルアップに次いで多かった。



先輩職員からのメッセージ

- ☆ 鳥取県は田舎だし...と思われるかもしれませんが、他県に先駆けて行っていることがたくさんあります。小さな県ですが、とてもエネルギーに溢れているんです！県職員と一緒に鳥取県をもっと魅力ある県にしませんか？
- ☆ 私自身、働きながらの公務員試験は難しいと感じていましたが、新しい試験コースができたことをきっかけに受験し鳥取県職員になりました。以前より多くの人にチャンスがありますので、公務員に興味があるなら機会を逃さずにチャレンジしてみてください！
- ☆ 職場は優しい人が多く、働き方改革を推進しているので罪悪感なく休暇も取れ、業務が忙しくない限り残業することもなく帰宅できています。
- ☆ 最初仕事がわからなくても上司や周りの職員の方がフォローしてくれたり助けてくれます。職場環境もよく楽しい職場です。
- ☆ 入庁前に聞いた話で残業が多いと思っていましたが、私はそんなことはなく、しっかり自分の時間を確保できています。採用後のしっかりとした研修のおかげで自身のスキルアップとともに同期との仲も深まりました。
- ☆ 自分がやりたいと思った仕事、適性に合った仕事を探すのはとても大変なことだと思います。ですので、様々な部署で経験を積みながら自分に合った仕事を探せる県職員は魅力ある仕事だと思います。

【質疑等】

- 委員：キャリア総合で入庁した方が法律を読むことをあまり難しく思っただけという話があったが、本人がどう思うかと、上司がどう思うかとでは違うと思うが、上司からみて問題なさそうだなという感じなのか。
- 事務局：主観での回答なので、仕事が完結していたら新人だからこんなものかと本人が思っている可能性はある。任命権者に対して評価結果がもらえないものかという話も以前したが、外に出すのは難しいようである。そのような中でもキャリア総合で入庁された方へのフォローアップができないかなということで、この設問を入れた。
- 委員：本人がそんなに問題を感じていないのであれば、そんなものだという事。
- 委員：そこに課題を持てる人は真摯だというとらえ方もできる。仕事の最初のスタートとして本人がすごく大きな壁だと感じてしまうと困るので、まわりもこれくらいできたら大丈夫ということで目標設定を低くして見ていくのではないかと。本人も大きく意識することなく超えて次に行けるというのも能力だと思う。自分がどう1年目をクリアできるのかというものとして捉えた方がよいと思う。
- ほかに、キャリア総合コースで採用枠を増やしながらか、幅広い人材を確保しようとしているのは賛成だが、アンケートにある「教養や専門試験の勉強の時間がなかったから受験した」というのが前面に出ると、受験する側から見ると、専門試験がなくても合格できたのかなと一面的にとらえることがあるかもしれない。キャリア総合コースの意味をしっかりと伝える配慮があるのかなと思う。専門試験の試験勉強をした、していないということではなく、自分のアピールをして、しっかりやってきたんだということを強調すべきだと思う。自分のしてきたことをはっきりアピールして、トライできるというのがキャリア総合コースの良さだと思うので。
- 委員：関東に説明会に行ったら参加学生が少なかったという説明があったが、最終的に合格者については関東の大学出身の割合も引けを取らない。それからすると、ホームページや説明会などを参考にして受験する人もいると思うが、最終的に迷ったときに家族からのすすめというのも馬鹿にならない大事な要素だと思う。
- あと、採用前後で感じたギャップについて、技術職が「仕事の幅が広い」というのが多いが、広いから困るのか、その逆か。また、事務職で「事務的な仕事が多い」というのが多いが、事務職だから事務的な仕事が多いというのは当たり前だと思う。
- 事務局：事務職については、事前に収集した情報をもとに、各地を飛び回って活躍するイメージを大きく抱いて入庁する人もいるかもしれない。そういう人が、実際はやはり事務仕事があるので、ギャップを持ってしまったということかもしれない。技術職の幅が広いというのは、いい意味も悪い意味のどっちの意味もあると思う。人によって幅が広いのがいいという人もいれば、そうでない人もいる。
- 委員：休暇が取りやすいという意見が多いのは、世論が働き方改革と言っていることもあるかもしれない。
- 事務局：土日があってよいといっているのか、有給休暇が取りやすいといっているのかというのもある。
- 委員：全体的に、自分が働いたらどうなるのかという点がとても気になっていて、実際に入庁されそうして良かったということも言ってもらっている印象。このアンケートの活用についてだが、次を受験する人に役立てていけるのではないかと。県庁で働くということを最後に選ぶときに、家族や友達の言葉や職員メッセージというのが、働いてからの不安をポジティブにしてくれるものであると思う。少しネガティブな要素もあるかもしれないが、それ以上にこういうところが良かったという実際に働いている先輩の声は、受験者にとって参考になる。アンケートのここが強みになるのではないかと。ネットショッピングや旅行サイトなどでも口コミや評価をすごく気にしているのが今の風潮だと思うので。
- 委員：数年前から身体障がい者の方が入庁されているが、その方たちがどう思っているかというのを知りたいなと思う。人数的には少ないが、入って良かった、社会に貢献できたという感想があればPRになると思う。

六 次回人事委員会の開催

令和2年1月23日（木）午後4時から開催することとした。